

12/29 3-34



梶田隆章日本
學術會議會長

政府の介入方針批判

学術会議が国民に説明文書

日本学術会議の運営や会
國選考に介入しようとする
政府方針に対し、「強い決
意をもって」再考を求めて
いる同会議は27日、梶田隆
章会長名で、広く国民に向
けて学術会議の考え方と理解
公表しました。政府の方針
には、学術会議の性格を根
本的に変え、独立性を侵害
しかねない深刻な問題があ
ると指摘し、「方針」を批
判しています。

体的な理由（立法事実）が示されないまま既定路線とされて、いかにも強く危惧を表明。

は法のもじでの公選者が覆されたりしなり、それ自体、公選への重大な介入となる」と指摘しています。

つために世界のアカデミーが採用する現行の会員選考方式を放棄することになりかねない▽首相による透明性を欠いた任命拒否に道が開かれ、繰り返されかねない▽すでに進んでいる、現

政府と「問題意識や時間軸」を共有する」と強く求める「方針」に対し、学術には政治や経済とは異なる役割があることを強調し、「方針」を批判していきます。

(2/29) 5-78

日本学術会議が2010年分表した説明文書の要旨は以下の通り。（全文は日本学術会議のホームページで読めます）

本会議は政府方針なりが既定とされる前にて開かれてゐる。これが政治や経済などに及ぼす影響をいかで評議するか、それがいつに至るか等の懸念事項を指してのものである。

①現在の会議が主として開催されるのは、たゞ議論のための科学者の中から新会員を選ばずする実質的な理由（立法案未提出）に触れていない。

②「方針」も内閣府の説明も、法改正を必要とする目的とするが、その方法（オオナーチン方式）は世界のアカデミー共通したもので、原則的に問題はない。

本会議が独立して飛躍を挙げざる所以である。一方、内閣府は第三者会議の設立方針自体が見直されねばならぬ。立法案が針で示された会議規則が示されないまま、法改正に関する第三者会議の開催が危惧されるべきだ。内閣府は

学術会議の説明文書

都知生懸との非難を免れ
なる。
⑤現行の「3部制」代え
は独立性を大きく損な
て4部制が廢棄に提案さ
う。
れた。これは学問体系に
即した内発的論議によ
る。第1問題意識や時間軸等
ない政治的・行政的判断
による組織編成の提案で、直
接及ぼされているが、それ
ある。本会議の構成を表す
れる可能性は否定さ
れないが、著者ロバート
ディーを代表する機関と
して、どのような組織構
造を行ってもかねば法改正
改密を行つてもかねば組織
行政側から「一方的に組織
を學術的知識は、政なり
問題意識を共有しなじむ」と
いふ点にも考慮される。中
長期的観点から物事を考
える學術と短期的な判断
を巡る政治的問題解決
一定の問題時間軸を共用す
きない場面があるのは自
然である。政府とは異な
る「問題意識や時間軸」
で問題を提起し社会的問
題をも學術の役割であ
る」とも説明した。